

クラス	Q303	担当教員	瀬地山 葉矢
テーマ	臨床心理学的視点から親と子・家族を考える」		
著書・論文	著書：「心理実習の経験を社会人として活かすには」『心理実習—体験を通して学ぶ公認心理師の基本スキル②』 日本公認心理師養成機関連盟編 遠見書房, 2025年 他		
研究課題等	論文：「母親の内的ワーキングモデルは子どもへの愛情に影響するか？」心理臨床学研究 第33巻第2号, 2015年, 共著 他		
	研究課題： 親と子の関係性の発達、乳幼児とその家族への臨床心理学的介入、子育て支援		
ゼミナール概要			
キーワード： 親子、関係性の発達、愛着、子育て支援、臨床心理学			
目的と内容			
<p>私たちは、「親子関係」、「家族関係」という言葉をよく見聞きしますが、臨床心理学的にそれらを理解するには、親子・家族それぞれに個性的な関係性のなかで起こる出来事他に、個人がそれらをどのように体験し、意味づけるかについての細やかな観察と考察が求められます。</p> <p>ゼミでは、①親や他者との関係性を基盤にした子どもの発達、②親および家族の発達、③親と子・家族が抱える問題や心理的課題、④子育て支援や①～③に対する臨床心理学的支援や介入などをテーマに、それらについて臨床心理学的視点から深く考え、学ぶことを目的としています。またゼミの仲間とのディスカッション、関連文献の輪読、個人の卒業研究などを通して、自分の考えを相手に伝えること、文章にしてまとめる力をつけること、そして研究を進めていく際に必要な手続きの修得をめざします。</p>			
授業計画等			
<3年次>			
3年次前期は、グループでの作業および活動が中心です。今年の3年生は、3グループに分かれ、それぞれ「体罰・家庭環境と非行の関連性」、「音楽は日常生活を動かすのか?」、「親子双方への支援を目指して」をテーマに、先行研究のレビュー、調査方法、今後の課題等をまとめたものを発表しました。			
3年次後期からは、卒業研究のテーマ、問題・目的、方法について検討を進めます。			
<4年次>			
各自のテーマに沿って卒業研究を進めます。ゼミでの発表や草稿提出を経て、卒業論文としてまとめます。			
<最近の卒業論文のテーマ>			
大学生における先延ばし行動とセルフコントロールの関係、親子関係が恋愛観に及ぼす影響、自己統制感が失敗感や行動に及ぼす影響、繊細な人も生きやすくなるのか—HSPとレジリエンスとの関連—、学童期の子どもを育てる母親の職業形態別にみた育児ストレス、親子関係と精神的自立の関係について、対人ゲームと攻撃性の関係、恋人にデートDVをする人の特徴と心理、パーソナリティ特性がゲーム依存傾向に及ぼす影響—利用動機とゲームジャンルに着目して—、自己肯定感が恋愛依存に及ぼす影響、大学生の自尊感情と両親の夫婦関係の認知との関連、スポーツでのパフォーマンスに心理的变化が及ぼす影響、ピーター・パン・シンドロームに関する文献研究、養育者の態度と自己肯定感の関係について 他			
担当教員からのメッセージ			
○ゼミは、自身の取り組み方次第で、これまで履修してきた講義や演習とはまた一味違った体験のできる場です。 <u>充実した大学生活を送るためには、卒業時に達成感を味わうためには、ゼミでどのような活動をしていきたいか、どんなゼミにしていきたいか、まずは自分で考えてみてください。</u>			
○ゼミでは、個人の卒業研究以外に、グループでの作業・活動も行います。他者の前で自分の意見を述べること、他者の考えに耳を傾けつつ考えること。これらのことが得意である必要はありませんが、ぜひ挑戦してみたい、取り組んでみたいという方の参加をお待ちしています。			
○私自身は、上記の研究課題以外にも、なぜ心理療法（セラピストとクライアントの関係性や対話）を通して、人の心が変容していくのかについても関心があります。また現在の主な臨床のフィールドは、病院臨床（精神科）と保育園です。人の心の深遠さ、不思議さについて皆さんと話ができることを楽しみにしています。			